

新山協ニュース

発行所 鈴木敏雄

発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町 1-12-23 室 賀輝男 TEL 0258-32-0428



神楽峰 栃木県 坂口三郎氏 提供

神楽・津南・スキー・

ツアーに参加して

副知事 関 昭 一

○ 昨年の五月の連休に、スキー・ツアーが、病みつきにキー仲間の（今は仙台に転勤された）沖永検事正のお伴をして、三浦敬三氏が主宰する山と雪の会による八甲田スキー・ツアーに参加したことは、私のスキー・ライフの転機となるものでありました。八甲田山は新田次郎氏の好著とその映画化によって、死の雪中行軍の暗いイメージが強烈ですが、五月の始め弘前城趾が桜の花で霞む頃はさすがに季節の遅い津軽平野も春が一べんにやって来て、冬將軍の猛威も忘れがちに、名残りの雪が優しく山肌を覆うのです。八甲田のスキー・ツアーの良さは、何といっても大斜面の広大さとファミリー・ツアーを可能にする適当な斜度にあります。自然も人々も、スキーもアフター・スキーもこの上なく楽しかったこのスキー・ツアーが、病みつきに

○ 今度の神楽・津南スキー・ツアーの計画を聞いても二もなくとびついたのは、これが私の新潟でのスキー・ツアーの切っ掛けとなるであろうことと、三年前に今回のリーダーでもある清水さんのご案内で、夏道を歩いた丁度同じコースであることが理由でありました。

新潟県はゲレンデの数が六十五を超え（私は未だその半分も滑っていませんが）、ゲレンデ王国であるばかりでなく、距離、ノルディック王国でもあります。そしてまた、本県の山相——池塘に富んだ緩やかな山頂と春になってもなお豊かな残雪——は、スキー・ツアー王国を約束するものでありましょう。現に、神楽・津南スキー・ツアー（津

南町)、守門岳(栃尾市)、浅草岳(入広瀬村)、白馬岳(糸魚川市)等の市町村主体のスキー・ツアーがますます盛況のようでご同慶に堪えません。(なお、クロス・カントリ・ツアー・スキーも今後、爆発的に盛んになると思われまます。池の平、塩沢、長岡を先駆者として、全県的にコースの整備を期待したいものです。)

○ 今回の神楽・津南スキー・ツアーは、全国的な下り坂のお天気の中で新潟だけ絶好の晴天に恵まれた、素晴らしきスキー・ツアーでありました。そもそも、和田小屋までリフトで乗り継げるのが昔と比べて一日分も楽、更に国土開発のご好意で早朝のリフトの運転で四十分ほどの儲けはありました。お、悪天候に備えての重裝備のザックとスキー、スキー靴が肩にこたえて、神楽までの登り、特に途中の三ノ峯の登

りでは汗をしょりました。降りでは霧の塔のカベが厳しく、「切角、苦勞して登ったのに、降りにも苦勞するのでは引き合わない。」とボヤいたものでした。八甲田山は一人登頂すれば、その後は一瀧千里、適当な斜度の大斜面を下るだけなのでしたが、神楽・津南では急登あり緩登あり、カベありトラバースありという変化に富んだ二十キロ

のコースは充実感に富んだ、まことに楽しいスキー・ツアーでありました。○ さすがに豪雪の今冬の雪も三月末にはすっかり締って、歩くのにも滑るのにも全く不安はありません。ザラメあるいはアイス・バーンの上にはうすすらと新雪が覆ってしました。しばらくの滑降の後の小松原の「上の芝」では雪が重く湿った気配に感じましたが、そこでもなお、大気は零度以下で大白檜曾の枝先ごとにツララがキラキラと垂れていて、

口を含むとほのかにジンの香りがいたしました。更に滑り降りるに従って限りなく春のグレンデ並みの湿雪に近づいたわけでありまして、神楽、三ノ峯、霧の塔の雪がいかにか素晴らしかったかを再認識した次第です。山で快晴ならば景観が素晴らしいことはごく当り前のことですが、この日の雪山の素晴らしさをスキーに不得手な山仲間に見せてやりたいものです。谷川連峰から巻機を経て越後三山、苗場の本峰から鳥甲の彼方に妙高といった工合で、遠望こそ利かなくなつたものの、今年の冬の雪の深さに一しお神々の座の想いを新たにしました。

○ このスキー・ツアーに参加された方々は、このコースにふさわしい山のベテラン揃いで、県の山岳協会長さんをはじめとするお歴々、県外では栃木、千葉の会長さん等々、また、ご参加の皆さんのスキーも、博物館入り間近な貴重のあるスキーを筆頭に、個性豊かな山用のスキーをご持参の方が多くて感服しました。今後の山スキー及び丘陵用クロス・カントリ・スキーの

白銀の苗場山塊

小松原スキーツアーを終えて

担当理事 桑原 悌治

今年度県山協最後の行事が、りと座す雄姿、さすが名山苗場去る3月28日から29日に苗場山塊小松原スキーツアーでしめくくられた。

豪雪が皮肉にも幸いし、申し分のない条件となり、またすばらしい快晴に恵まれた。

参加者は当初予定より大巾に増え、総勢52名(男48、女4) 県外からも6名の賛同参加があり、また関副知事の特別参加をいただき、事故もなく全員無事下山した。

白銀にシユプール

和田小屋泊りと神楽峰雪洞泊りの各グループは、それぞれ早朝に出発した。ぬけるような紺青の空、きらめく白銀の山脈を眺望し、神楽の峰に立てば、硫黄沢をはさんで眼前に立ちはだかる苗場の巨体。白いペールを覆って、どっし

山スキーのベテランも意の如くならず。

三ツノ山からは下るだけ、シラビソ、ダケカンバ、ブナの原生林を思い思いにぬって滑る。新雪の後だけにスキーが滑り快適である。

昼食の場所、小松原上ノ代は静かなたざまいをみせ、強い春の陽射しは心地よく肌をあたためてくれた。小松原からは緩急おりまぜたスロープ、悪天候ならそうもゆくま

いが、鼻歌まじりで思いきり、とぼし、津南原、保養基地を抜け、終点源内山部落へと一気に滑り下りた。全長20キロメートル。ときに午後3時であつた。

真黒に陽焼けた顔、どっさり腰をおろし走破したコースをふりかえり、ビールで乾杯。満面みちたりた、さわやかな表情であつた。

残された問題

今回のツアーは幸い天候に恵まれ、快適な行動ができたが、悪天候の場合、小松原は

ダダ広く、迷い易い、安易にはでかけられない。宿は和田小屋と野営の二本立てとしたが、小屋の収容状況から、来年度は野営を主に統一することが、繁雑さがなく、また参加者の心構えも揃うであろう。

苗場山スキーツアー参加者名

中沢武彦、浦井九八郎、津端

茂夫、桑原隆幸、久保田茂治、

星賢輔、保坂士郎、桑原勇、

半戸茂、桑原悌治、石橋雅博、

清水迪男、山本松寿、笠原嘉

明、小幡功、和田絹恵、渡辺

重、小林健一、坂井厚、笠原

志郎、小川精一、小島松夫、

樋口文雄、小林由夫、伊部義

高、親松勝栄、佐々木満、早

坂伸二、吉田光二、石黒、金

沢鉄造、高橋、望月力、坂口

を遂行するに当り、地元津南

三郎、安斉三郎、鈴木文益、

山岳会、各関係者の御協力と

長谷川正、長谷川かおる、森

行事に賛同参加された、県内

田美代子、中野正剛、清水勝

外の皆さんに厚くお礼申し上げ

ます。

賀敏彦、五十嵐篤雄、室賀輝

男、旗野栄、須藤洋一(以上)

冬山技術講習会報告

久保敏男

県山協主催の冬山技術講習会が3月7日、8日の2日間、岳会、後援三条市教育委員会、三条市大崎山のグリーンスポ

都岳連ダウラギリ登頂隊長の清水清二氏、県山協の藤井信氏、平田大六氏の講師指導で催された。

本を読んだり、テレビや映画を観ても実際の生きた技術は身につかない。より安全な登山をめざし技術を自らが肌

に感じ体験しよう。と云う主旨で開かれたものである。

第一日は午後3時よりの開講式の後、テント設営と雪洞掘りの実技が行われた。

4時半頃、県山協、鈴木理事長の案内で韓国ソウル市の昌元山岳会、金禮安(キム)UP KIM)氏が訪問され

5時半の実技講習終了と同時に全員に紹介される。昌元山岳会と県山協とが姉妹会を結びたいとの話がある。6時より7時まで夕食。食後ヨーロッパアルプスの岩場で50年前のスタイルによる、基本的な登攀技術の映画を観賞し、清水講師のヒマラヤ登山を主とした講演があった。

9時より懇親会が催された。終了後、宿泊棟の各室及びテントに分れて就寝した。

夜半になり風雨強くテント

宿泊者はハウス内に避難した。第二日。起床と同時の六時よりアイゼン、わかんの説明と着脱の実習、そして歩行実習が行われ、歩行して始めて各自がわかんの履き方、歩き方についての技術をそれなりに身につけた。

8時より9時迄朝食。食後

イグルー構築の実習が行われ全員交替でスコップを握ってブロックの切り方、積み方を体験した。

10時よりザイルワークによる歩行練習。滑落確保の実習が行われた。落ちる者、確保中にふっ飛ばされる者などがあり、なごやかな中にも厳しい実技講習であった。全員納得のゆくまで実習したため、時間をオーバーし12時40分になってようやく終了した。

昼食後1時30分よりミーティング、講評があって2時に閉講した。

参加者 一般 16団体、67名、高校 2校 15名、計82名。

講評後の各団体の意見と講評氏の講評。

◎ 燕山岳会

今迄の講習会は、講習なのか登山なのかと考えさせられる中途半端なものが多かったが、今回は講習のための時間が充分に取られて良く、何か目的がはっきりしていた。今後このように有りたい。

◎ 越後ハイキングクラブ
燕山岳会と同意見で、講習会なら徹底した講習会であってほしい。その点今回は満足であった。

◎ 悠峰山の会
今までのような山に登るのが主体ではなく、講習そのものを細かい処までやってもらって良かった。

◎ むささび会

今回は一応満足したものだ。今後は時間を十分に利用し、実戦を主体にした講習であってほしい。

◎ 笹神村うすゆき山の会

あまり参加したことがないが、講習会はあれもこれもでなく、一つか二つでよい、じっくりやれたなと思う。その点今回はまあまあだと思う。

◎ 岩峰山岳会
地元で初参加で勉強になりました。今後当会の中で今回習ったことを運用したいと思えます。

◎ 一般の人達と一緒の講習はいろんな面で勉強になることが多かった。

◎ 岐阜山岳会

講習会というところ、見る人に分れ易いが、参加者全員がもう少し体を動かすような方向にもって行き、もっと身をもって体験することが出来ればなお良いと思う。

◎ 越後吉田山岳会

講師もすばらしく積極的であり、実戦的に行うことは効果が大い。今後このようにもって行ってもらいたい。

◎ 秀峰山岳会
山に登るのか、技術講習なのか、あぶはちとらずではなく、今回はこれとこれ、来年は別のもの、と項目は少なくともよいから充分時間をかけて実戦的に体得出来るように運営してほしい。今度の講習会は当会が主管で計画立案されたが、一応この方向で運営実施されたと思う。参加者はレベル的に大きな差があると

われるので、クラスを分けてやることも考えて見られたらと思う。講習内容も毎年同じものでなくても良いのではな
いか。

◎ 平田大六氏

今回は中央よりの立派な講師に恵まれ、また一つだけでも充分時間をかけてやられたことは良かったと思う。

◎ 清水清二講師

1. 新人養成の講習なのか、リーダー養成の講習なのかの区別も必要ではないか。

2. 技術講習についてあれもこれもとなると、初めの方のものを忘れてしまう恐れがある。忘れてしまうようであればやらないと同じだ。覚えてもらうためには項目を少なくじっくりとやるのが良い。

3. 参加者はなぜそうなるのか? なぜそうやるのか? などもっと疑問をもって向って来てほしい。技術の裏づけを身につけるためにも。

4. 滑落停止とか確保とか、

という落ちたらどうするかという技術講習が比較的多いのだが、落ちないためにはどうするか技術を前提とした研修、講習も良いと思うし大切ではないか。

◎ 参加者の意見のまとめ

1. 講習会のための講習会であってほしい。
2. 全員が体を動かして体得されるものにしてほしい。

北信越地区審判員研修会

に参加して

本望英紀

北信越地区審判員研修会が

3月7日、8日に長野県大町山岳センターで行なわれた。

北信越五県とは富山、長野、石川、新潟、福井の順で持ち回りで開催され新潟県は順番で行くと四番目である。当日の参加者は総勢42名で新潟県が一番多くて11名の参加だった。

朝7時30分の雷鳥に乗り、糸魚川駅前で全員の顔がそろ

3. 与えられた時間を十分に使ってほしい。
以上の観点から今回は一応満足出来るものであり、今後このような方向に向けて一層充実したものにしてほしい。

以上

CL 望月力
屋内CL 久保敏男
屋外CL 小林由夫

初研修者のグループは沢村氏を講師に座学が始まる。教科書は国民体育大会山岳競技規則集を、講師の読み取りで始まり、その後受講生が一頁ずつ位で読み上げ、細部の説明、質問を繰り返し午後2時から6時迄研修する。

朝7時30分の雷鳥に乗り、糸魚川駅前で全員の顔がそろ

う。大町駅よりタクシーに分乗、会場の山岳センターへ向う。2時より研修会始まり、講師の沢村幸蔵氏(神奈川県坂口三郎氏(栃木県)の紹介あり、すでに認定研修済みのグループと初の研修者のグループに分かれて研修に入る。

致しします。

初研修者のグループは沢村氏を講師に座学が始まる。教科書は国民体育大会山岳競技規則集を、講師の読み取りで始まり、その後受講生が一頁ずつ位で読み上げ、細部の説明、質問を繰り返し午後2時から6時迄研修する。

以上

早々に夕食、風呂に入り7時より長野県山岳連盟の心づくしの懇親会が始まり、各県ごとの自己紹介や歌が出て10時過ぎ就寝。

8日午前6時起床、室を片付け朝食後7時、早々に認定

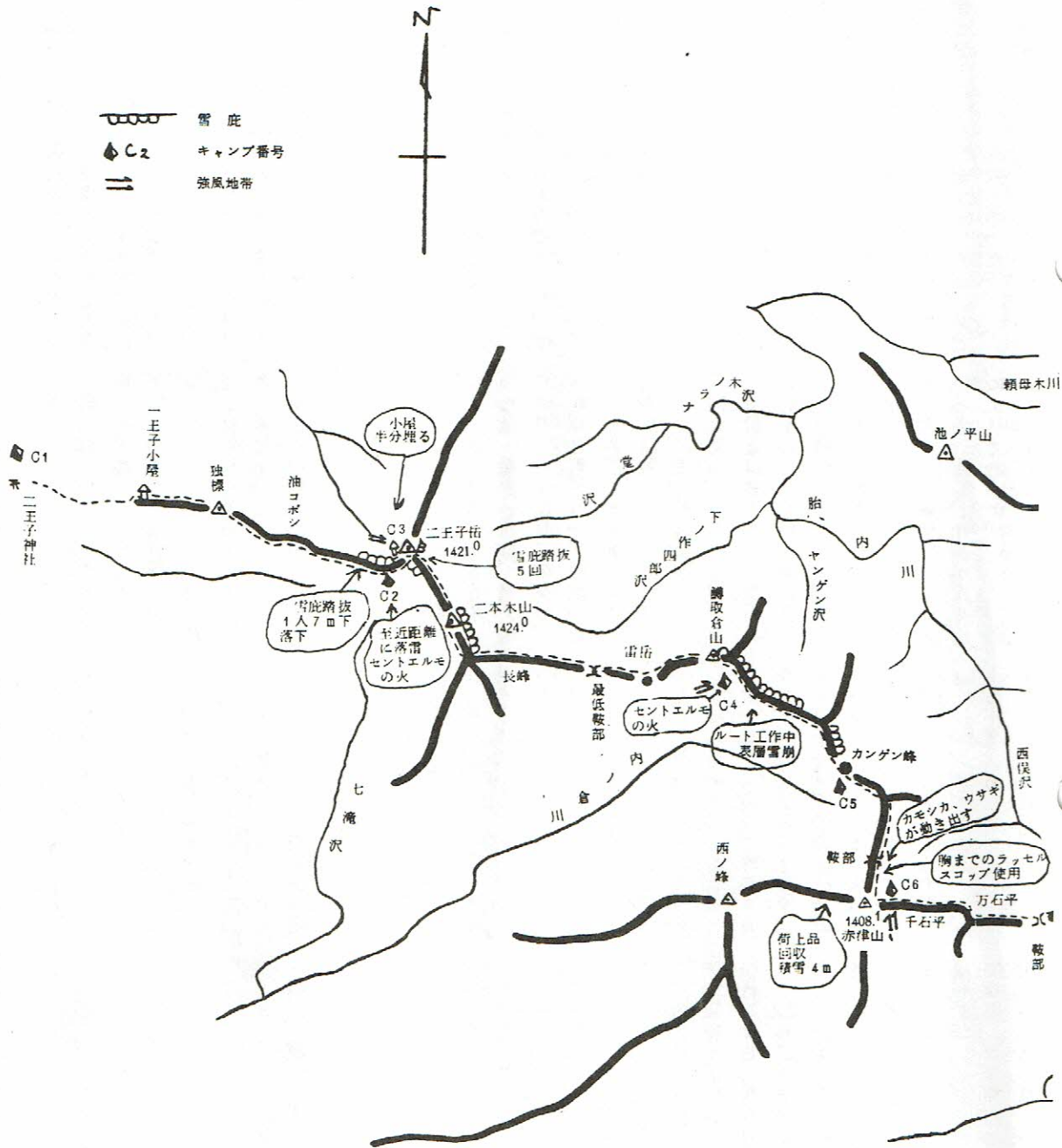
ながら一路、帰りを急ぐ。

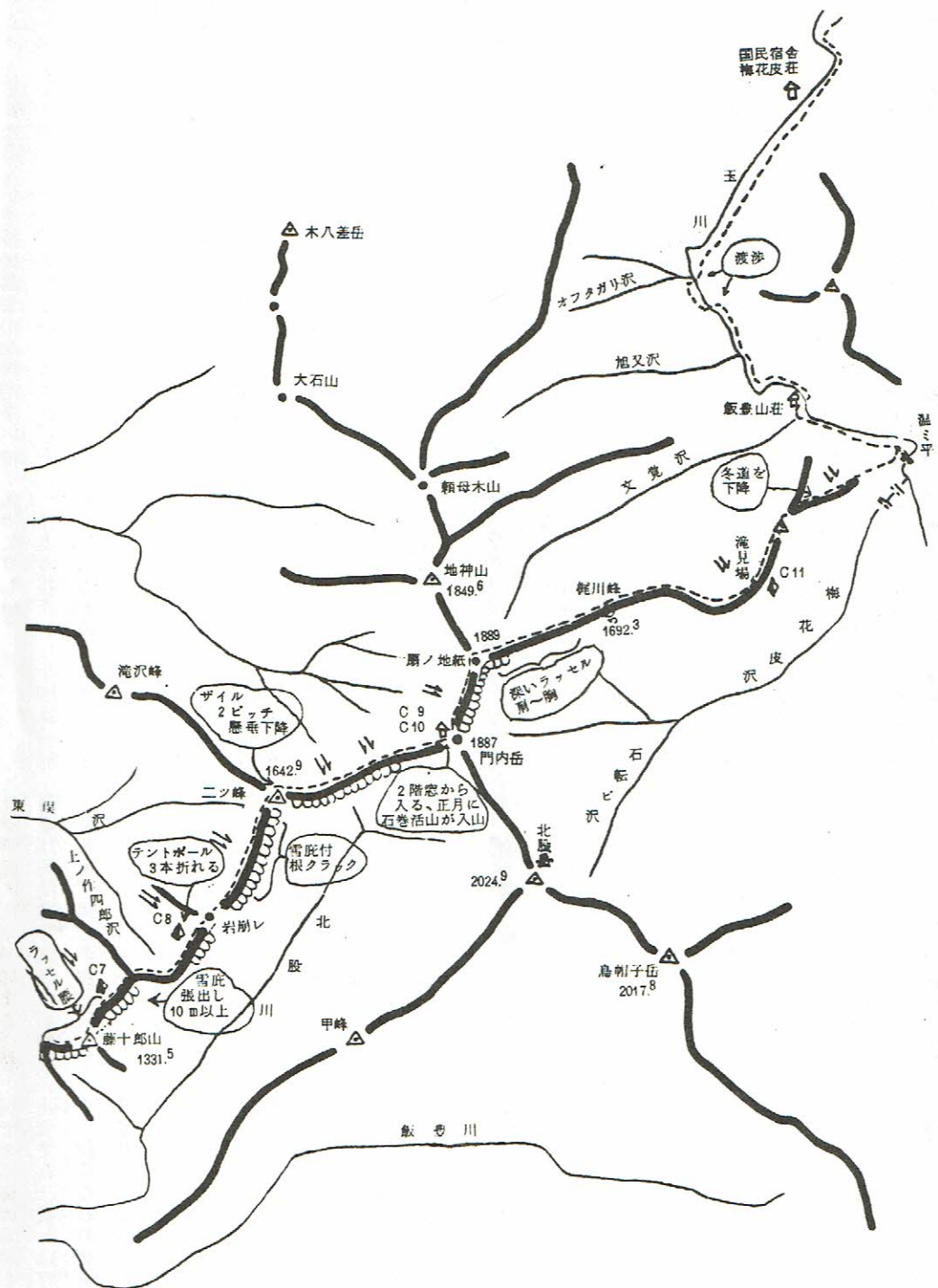
二王子岳(門内岳) 厳冬期初縦走

三菱瓦斯化学山岳部 青木興家

©日程及び行動時間
12月27日 南保一 二王子神社 幕営 C1 1時間30分
12月28日 C1 二王子遭難碑 C2 9時間50分
12月29日 C2 二王子山頂 C3 55分

飯豊・二王子岳～赤津山～門内岳 概略図





12月30日 C3ー罇取倉山C4

8時間30分

12月31日 C4ーヤンゲン峰C5

7時間15分

1月1日 C5ー赤津山C6

時間30分

1月2日 C6ー藤十郎山ー

一三〇〇米付近C7

6時間25分

1月3日 C7ー岩崩レ手前C8

1時間30分

1月4日 C8ー二ツ峰ー門内

6時間30分

1月5日 C9ー停滞日ーC10

1月6日 C10ー梶川峰ー滝見

1月7日 C11ー温身平ー長者

合計11泊
延行動時間66時間35分

◎メンバー

縦走隊 青木興家、平松敏彦、

佐々木満、親松勝栄、

早坂伸二

支援隊 遠山博明、古谷 勲、乾電池

田中昭夫、坂井英雄

通信隊 大竹武司、浅野文英

◎装 備

テント ダンロップ6人用外

張付を使用した、C8

で強風のため押し倒さ

れ、ポール3本が折れ

た。

◎気 象

昭和38年

以来の豪雪と史上

最悪の遭難者を出した天候が

示すように、各種警報と注意

報が休みなく出され、現場は

連日猛吹雪で視程もほとんど

数十米であった。

結局青空を見たのは元旦の

午後だけであった。

◎ラッセル

全行程38Km中、3/4に近い

28Kmが空身ラッセルで、その

深さは股下/腰が大部分を占

めた。一番深い所は、扇ノ地

紙の肩、赤津山登りの胸で、

両地点ともスコップで払った

後、踏み固めて前進した。

◎雪庇踏抜

二王子頂上付近に集中して

6回程発生したが、落下高さ

7m位とは云えやはり気持の

よいものではない。その他に

3人一緒にクラックにはまり

込んだり、荷物だけ数トンの

雪庇と共に沢へ落ちたり、飯

本山行に当り、協会長はじ

誠にありがとうございます。

末筆ながら本紙をお借りし

て、お礼申し上げます。

二王子岳

山岳スキー講習会

越後支部長 齊 藤 平 七

登山にスキーが利用されて

半世紀以上の経過が見られる

が、特に越後の山岳では苗場

山、守門岳、二王子岳、等々

が大正年代から昭和初期にか

けて以来山岳スキーのメッカ

として君臨していた。一時期

この山岳スキーも低迷を余儀

なくされたがここ最近、見直

されたと言うか山岳スキーの

台頭は同好の者としてよろこ

ばしいことである。昨年6月

中旬、「山岳会の川上です。」

と東京から電話がかかった。

山岳スキー講習会を3月にや

りたいのだが何処か適当な処

を推せんして欲しいとのこと。

1. グレンデでは駄目、リフ

トも不要、あくまでもシール

を利用しての登行。

100000

をもちたい。

なかなか欲深い注文が出さ

れたのだが、指導委員会、遭

難対策委員会、越後支部の併

催と云うことで引き受けるこ

とにした。会場の設定は当方

から妙高山、守門岳、二王子

岳 資料を送付して委員会に

一任した処、昭和56年3月20

日ー22日二王子岳との決定を

みて、下越山岳会にその当番

をお願いしたのである。

本部から金坂一郎(遭対委

員長)川上隆(指導委員長)

嵯峨野宏(指導委担当理事)

高橋聰(青年懇担当理事) 桐

生恒治(高所登山委理事) 降

旗義道(チョモランマ隊員)磯野剛太(チョモランマ隊員)の諸氏が役員講師として付き添われ、受講生を含めて東京勢20名、地元勢は下越山岳会、関川村山の会、東蒲山岳会、吉田山岳会、新潟鉄工所山ノ会、新大山ノ会、越後山岳会、映彩山岳会の面々30名、参加者総勢50名となった。

20日、夜行組を新発田駅で迎いて市体育館で朝食のため出発時まで休憩とする、素泊、自炊と云うことで各人の荷物は大きくふくらんでいる。

9時にバスが来た。豪雪と云われながら市内の除雪は完全に雪国新発田の風情もうすい街を南俣へ走る。効外へ出るれば雪は多く白一色と景色は変って来る。五頭連峰、二王子の山々がクッキリと眼前に浮かび今日の天気を約束してくれた。南俣は2米の雪の壁、車道はこの壁でブツリと行き止まりである。重い荷を肩にいよいよ大望のシールの効用を試す時が来た。下越の若衆のツポ足はまだ無理のよう

だった。荷は肩に喰い込み、気温は上昇、ゆらぐカゲロウのなかの登行は夜行組には流汗の難渋だった。加えて縮具の調整、シールの締め直し等、タヌックリと緩登が続く。ゆるいカーブ、チョッピリ頭をのぞかせている道路板で車道を確認しながら「ひょうたんタンポ」の平へ出て余りの大雪田にいまさらながらビックリする始末。車道から杉木立の参道に入れば日蔭と沢風でヒンヤリと肌寒さを感じずる飛瀑を左に見て石橋を渡れば神社境内で、この台地を急登すれば二王子神社本殿である。12時30分本講習会の泊場である籠堂へ着いた。木造二階建のガッチリした建物だが3米もの積雪と屋根からの雪で内は暗闇で明り取りの作業がまわっていた。

昼食後、13時30分集合、神社周辺でスキー練習、「右デト尾根」から沢への急斜面と「学校林」の植林地帯が舞台となつての講習練習だった。18時、神社で本講習会の安

全と成功のお初穂祈願祭が官司の好意で厳かにとり行われ、お神酒を丁載する。

18時30分、夕食となる。嵯峨野担当理事の司会で挨拶、乾盃、自己紹介と交流が進むなかで盛んに杯が交された。地元勢の多くは勤務の都合で夜半に到着の見込みである。21日、さすがに夜明けは冷え込んだ。空は青く澄んで今日も好天気である。スキー登山で50名からの勢揃いはまさに壮観である。またスキー、縮金具、シールと各人思い思いの古式、中式、最新式の用具が面白く、値段でタマゲたり、長短所や苦心談を聞いたりのさながらスキー用具展示会の様相を呈した。

8時30分、リーダーの一声で出発である。植林帯の杉林を抜ければ雪のやせ尾根へと強いられる。地元勢ではワカシ併用組も編成された。高度を上げれば眺望も良く眼前の五頭連峰が加治川を介して美しく難義さを軽減してくれる。一山行に気を良くした一同は

一王子の森も見えてきた。いま一息で大休止、それから先は尾根も広く二王子岳ゲレンデにふさわしく本山まで続く。杉木立に囲れた一王子神社は雪の下で解らない。小屋もスッポリと埋って屋根の一部がのぞいているだけ。

尾根は広く、危険箇所もなく360度の展望を欲しいままにしながらの登行は時間だけの問題である。飯豊の輝嶺も招いて足も軽るやかになると云う具合であろう。天候に恵れて飯豊連峰を屏風に見たてた一幅はまさに印象的だったと思う。たとい頂上着が11時、12時30分のバラツキがあったにしても、初期の目的だったシールで登行、出来得ればビークをものにした、の念願が果たせて快哉を叫びたい。滑降は七転八起の連続だったが、だろうか全員無事16時に籠堂に帰着した。

18時夕食となる。地元勢を含めた新入りの自己紹介に始まり、今日の満ち足りたスキ

若衆の爛が間に合わない程の大懇親会になってしまった。また参々伍々仲間を見つけて、口角あわをとばし深更まで中央、地方の交流を深め合ったことは大変に意義のあったことと深く感銘した次第である。

22日、明方小雨である。昨日夕刻の陽のかげりに多少の心配を嵯峨野理事としていたのだが今日の雪崩講習がどうなるか気になる模様だったが起床時頃から青空がのぞき初めて安堵の胸をなで下す。8時30分、二日間厄介になった神社に別れを告げて車道に滑り込む。杖制動に、股制動と賑やかな滑降風景が展開された。「ひょうたん平」の大雪山で三班に分れて金坂講師の雪崩の話を書く。削り出した雪面にインクをスプレーして各雪積層の滲透具合、濃淡程度などで雪の状態判断に役立つ、20米ほど離れた処に30程の角柱を一米掘り下げて作り、これにもスプレーして前の雪積層との一致層の点検検討、また各柱を押ししてどの層で滑

18時、神社で本講習会の安

るかの実験がなされた。こんな機会でないといけない話と実験で一同目を輝やかせている様は真剣だった。

二王子岳本山は連峰の奥で見えないが、油こぼし、独標が白く輝いてその偉容を誇り吾々を見送っている。これで講習の予定は南俣へ滑り降れば終了である。10時30分のバスに間に合うようにわれ先にと一斉に滑り降りた。

12時30分から月岡温泉朝日館で「はんばき脱ぎ」が下越杉原会員の司会で盛大に行われた。スキー講習も無事終ってユツクリ温泉につかった気軽さで挨拶、乾杯と宴は進んだ。乾杯の音頭は講習会参加者の斉藤健治長老にお願いして残り少ない時間を有効にしても楽しく愉快に過ごした。この席に藤島玄名誉会員の出席を得て挨拶を頂いたことは錦上花をそえて一同大いに喜んで次第である。

つきぬ宴に後がみを引かれる思いを月岡温泉に残して新発田駅で15時30分二王子岳

「山岳スキー」講習会はまたの再会を約して散会となった。例年になくお彼岸の好天続きの連休だったので大過なく初期の目的が達成出来たことは好運で支部としてお世話の甲斐があったと喜んでいる。この講習会は第四回を数えるとか、過去三回とも天候に恵れず失敗しているが今回は大成功だったと大変に満足して頂いたのがなによりだった。

好天で他の登山者も多く21日はスキー組、ワカン組も含めて百名を数えただろう。この時期にこれだけの人が登るなんて、二王子様もビックリしたのではなからうか。

下越山岳会五十嵐篤雄会長を初め会員の皆様、当番を引き受けて頂き献身的なご奉仕に厚くお礼を申し上げます。

山岳協、越後支部、下越山岳会、映彩山岳会、佐久間淳一、山田一男、小林兼一郎、の諸氏には特別ご甚志を頂き厚くお礼申し上げます。

山岳協会の皆様、支部会員の皆様、ご声援ありがとうございます

山岳協会の皆様、支部会員の皆様、ご声援ありがとうございます

(56・4・3)

第36回国民体育大会山岳競技 新潟県予選会 参加報告

長岡ハイキングクラブ 白石 岩 男

4月11日、12日標題予選会が長岡市東山連峰を中心に開催された。

一日目10時からの受付で、選手監督41名、審判員役員41名、オープン2名、地元役員24名、計108名参加の大会となる。開会式の後踏査競技、悠

久山公園一帯を会場とし、成年5250m、少年9000mのコースで、ポイント10ヶ所設問13問で競う。成年は引き続き栖吉川右岸風谷山サネ滝下部において登攀競技、あ

いにくのくもり空と兩岸の厚い雪塊で、寒さとも闘わなければならぬ。出発地点は地元

役員が今日の6時から設置したパイプの仮橋からである。

薄暗くなった頃幕営地に移動、雪上幕営審査の後今日の疲

れをほぐす交歓会。

二日目縦走競技、成年から2分間隔でスタート。残雪量が多い為コースは、幕営地、花立峠、鋸山、八方台、成願寺と短くなる。一等三角点(鋸山)を踏み、雪原を自由に歩き、今日は昨日の分も、と、大陽光線を浴びて歩く。

ゴール後計量を受け成年男子は天気図作成。閉会式は悠久

1位 新発田高校

2位 長岡工業高校

3位 新潟工業高校B

少年男子

1位 新潟中央高校

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

山で行われ、藤島名誉会長の競技は減点方式の話聞き、審判員への接し方と、審判員としての見る目の重要さが印象的だった。

成績は次の通り決まり大会が終る。

1位 新発田高校

2位 長岡工業高校

3位 新潟工業高校B

少年男子

1位 新潟中央高校

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

3位 新潟山岳会

1位 長岡ハイキングクラブA

2位 長岡ハイキングクラブB

山岳団体リーダー・指導員研修会の 通信欄より

通信欄より

新年会に出席できず申し訳なく、おからの豪雪でにぎわっています。最近はおまらスキーです。今年もよろしく。 竹中 正治

正月に豪雪の中妙高山へ登っていますし、準備などで朝から現地に着めなければなりません。研修会に出られそうもありませんのでよろしくお願ひ申しあげます。

杉原八百樹

金子 佳一

基礎体力保持のためランニングのみ。雪おろし、雪おろし、雪消しにて毎日毎日天を仰ぎ、この雪の上に青空があるのだと思ひ、より高い山々は常夏かと幻想する。当日全国鉄スキー大会「神鍋山」のため出席できません。よろしく。

坂西 徹郎

坂井 厚

あけましておめでとうございます。25日新年会に出席するべく8時30分に出ましたが、県道庄雪除雪のために赤谷駅前へ大規模が自動車の全面ストップで、電車に間に合わず止むなく引返しました。15日赤谷どんづき祭りがあります。市の観光行事であります。市長、助役も出席することでも

筑木 力

ています。

木村 祐三

日無事帰国。嫁口紹介乞う!! (才) 高木 博郎

越後の豪雪中に協会長を筆頭に、8名のメンバーでBU RMAに行き研修して来ました。留守中家の雪降しは会員がやってくれて、ただ感謝の

1月2日、北ア、鹿島槍が岳、毎日仕事に精を出している今日この頃であります。

藤井 信

中魚沼の川西へ単身赴任して3年目が終わろうとしています。積雪5mとの戦いに毎日明け暮れています。飯豊縦走を毎年7月に、未踏峰訪問を一昨年からやっております。

平田 大六

昭和 56 年度事業計画

協会・行事・活動報告

○ビルマ視察 1月14日～24日

○室賀会長外7名 3月7日～8日 別記

○理事会 1月25日 新潟市 ○苗場山小松原スキーツアー 3月28日～29日 別記

○新年会 1月25日 67名参加 ○国体予選会審判員打合せ 4月5日 長岡市東山連峰加

○関東地区打合せ 2月14日 38名参加

○15日 千葉県館山 室賀 ○日山協理事会 4月5日

○指導員研修会 2月15日 ○理事会 4月5日 長岡市

○13号発表 悠久山 20名出席

○冬山技術講習会 3月7日 ○国体予選会 4月11日～12日 別記

○5月10日 評議員会(新潟) 7月末 日韓合同アフリカ

○5月30日 指導員検定会(銀) 10月 縦断探険

○7月 岩登講習会(御神) 8月28日 第2回北信越国民

○7月 楽会) 9月 親睦登山(新潟地区)

○7月25日 新潟県登山祭(弥彦) 10月 山岳研修会

昭和 56 年度事業計画

1月下旬の新年会どうもありがとうございました。2月はくのが困る。いや苦しい有様です。3月末日までは多

1日生徒を連れて弥彦にトレッキングに出掛けて来ました。少ひっこめる算段です。

浜田 亮一 小林 光衛

当クラブ紅一点金内嬢、南米チリリアチェーンカグア、6

1月15日～17日焼峰山に於いて冬山合宿、念願の登頂を

700mでダウン敗退!! 先果しました。近 文蔵

10月13日	第36回国民体育大会	2月	冬山講習会(上越)
18日	会(滋賀)		地区)
11月	第37回国体一次県予選会(上越地区)	3月27日	苗場山小松原スキ
12月	指導員研修会	28日	1ツアー(第2回)
1月	新年会		※他に専門委員会計画予定

指導員検定会案内

期日 5月30日(土)～31日(日)
 会場 北魚沼郡湯之谷村銀山
 集合時間 30日13時
 検定費用 5000円
 地区指導員 23才以上

二種指導員 25才以上
 持物 残雪期装備、全員雪上幕営の予定
 詳細各会案内済み
 申込 指導員会か協会事務局
 5月23日

第21回全日本登山体育大会

のお知らせ

第21回全日本登山体育大会の予報2号が当協会に届きました。
 〇期日 昭和56年6月4日(木)～7日(日)
 〇会場 阿蘇国立公園くじう山系「久住」「宮

実施要項の概要を掲載します。主テーマ 自然保護

〇研修内容 「自然保護」をテーマに、室内、屋外の研修会を実施する。

室内研修では、大分県岳連の基調報告に続いて、学術関係者(植物生態学者を予定)の講演、さらに地元の「九重自然を守る会」関係者、国立公園管理事務所レンジャ、自然公園指導員らによる事例発表を行う。このあと参加者による意見交換会を予定。

なお、大分県において当面している主要な問題は、九重山群における観光開発に伴う自然破壊と登山者によるゴミ投棄、租母、傾山群における原生林の伐採である。

野外研修は、登山行動中に随時実施する。各コースに講師を同行させ、九重山群で天然記念物に指定されている、ミヤマキリシマツツジ、コケモモ両群落をはじめ、各種植物、景観の保護に伴う問題を中心に、各県での事例を含めて意見交換を行う。

〇参加料 選手 1人 7000円

役員 1人 17000円

〇日程 6月4日 集合 開

6月5日 長者原

6月6日 坊がつる

6月7日 閉会式

山々赤川

三俣山

〇会場

〇代表者

〇下条 荘市

〇新入会員紹介

加治川山の会

北浦原郡加治川村

大字住田2042

加治川村公民館内

代表者

〇大会の春山山行、新人訓練、春山教室等の、体験報告を編集者一同お待ちしております。

〇あ と が き

〇年度末の中国体予選会準備に追われ、最後まで残雪に悩まされる。踏査コースの設定が限られてしまい、登山会場は仮設の橋が一度流され、回収に夜の10時まで奮闘する。縦走コースは雪上歩行の為、時間がかかり過ぎること、コースが短縮される。選手達は雪原の中、かっ歩できて良かったと言う。次号は国体予選会特集を組んでみたいと思う。寄稿をお待ちします。

〇春山は残雪量と天候により、楽しくなることが多い。スキー滑降、グリセード、尻セード、と……。けれど危険もはらんでいることは言うまでもない。

〇各会の春山山行、新人訓練、春山教室等の、体験報告を編集者一同お待ちしております。